第4次那覇市総合計画(2008～2017)の概要

【まちづくりの基本理念】

なはが好き! みんなで創ろう子どもの笑顔が輝くまち

～亜熱帯の自然と文化が息づく、自治・協働・平和都市をめざして～

【6つの都市像】

心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市

まちづくりの主役は市民です。多様な価値観や社会環境の中、緩やかでいて、ときには団結し、力をあわせて理想を実現していくような、市民の間の心地よいつながりで、自治・協働の平和都市を創造していきます。

地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市

市民の誰もが社会的な役割と生きがいをもって、お互いに支えあい、充実した暮らしを実現することのできる健康都市をめざします。

人・自然・地球にやさしい環境共生都市

地球温暖化がもたらす異常気象は人類への警鐘です。すべての市民が日常生活の中でも地球環境への影響を考え、行動する、人・自然・地球にやさしい環境共生都市をめざします。

子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市

未来の担い手である子どもたちが将来への夢を育んで、その笑顔が町中にあふれ、市民が多様な価値観を認めあいながら、伝統的な文化を次代へ継承し、新たな文化を生みだしていくことのできる、ゆたかな文化都市を創ります。

人も、まちも活きいき、美ら島の観光交流都市

わが国の国際的な南の玄関口として広域的な交流・交易の拠点機能を高め、多彩な人材と多様な産業を生み出すとともに、地場産業の振興を図り、人も、まちも活力ある美しい島々の拠点、観光交流都市をめざします。

安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市

都市基盤や都市景観が、亜熱帯特有の自然や歴史、文化環境に調和した緑ゆたかな庭園のようなまちを築いていきます。誰もが安心して、楽しく歩くことのできる、魅力的で愛着のあるまちを市民とともに創っていきます。

【行政運営の姿勢・視点】

◆市民との協働の推進　◆市民の視点に立った行政サービスの向上　◆持続可能な行財政運営　◆環境負荷の軽減

基本構想

基本計画

協働によるまちづくり
①自治会やNPO、ボランティアが活躍できる機会を増やす
②市民の声がまちづくりに反映される仕組みをつくる
幸せ感のあるまちの創出
③人権が尊重され心ゆたかに生活できるまちをつくる
平和交流・男女共同参画
④平和都市の実現と発信の取り組みをすすめる
⑤戦争の歴史をみんなが伝えることができる
⑥男女共同参画社会の実現をめざす
市民に開かれた効率的な行政
⑦税金の一部の使い方を決められる仕組みをつくる
⑧行政情報を様々な方法でわかりやすく受けとれるようにする
⑨効率的で満足度の高い行政サービスをおこなう
⑩電子化による行政サービスの向上をすすめる
⑪持続可能な財政運営を確立する

健康づくりと地域医療の充実
⑫市民自ら健康の保持と増進を図れるよう支援する
⑬かかりつけ医など身近な地域で医療の相談ができる
⑭医療費の適正化に向けた取り組みをすすめる
ユニバーサルデザインのまちづくり
⑮高齢者や障がい者が暮らしやすいまちをつくる
ともに生きる心を育てる
⑯相互に理解し、支えあう大切さを共有できるよう支援する
地域の支えあい
⑰悩みや問題の相談ができるまちをつくる
⑱ひとりで悩んでいる場面に気づくまちをつくる
自立を支援するサービス提供
⑲地域生活を支援する総合的なサービスを提供する
⑳社会的弱者の就労支援システムを整備する

地球環境への配慮
㉑省エネやエコ商品の利用など市民のエコライフを促進する
㉒環境に配慮し自然が再生される産業を促進する
㉓環境に配慮した行政活動をすすめる
資源循環型社会
㉔ごみの発生の抑制、資源循環型社会を促進する
自然環境の保全・再生・創造
㉕自然環境の保全・再生をすすめる
㉖施設の緑化を促進する
衛生的な環境の確保
㉗衛生的な生活環境を確保する

生涯学習の推進と地域の教育力の向上
㉘どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる
㉙どこでも誰でも生涯スポーツができるまちをつくる
子育て支援と就学前教育・保育
㉚家庭や子育てに夢を持てるまちをつくる
子どもの視点に立った環境づくり
㉛生活リズムの確立を促し生きる力を育む
㉜子どもたちが授業に集中できる環境を整備する
㉝地域と連携して青少年の健全育成を図る
㉞教師の学ぶ機会を充実させる
㉟学校施設の補修・整備をすすめる
文化の継承と発展
㊱市民の文化活動を支援する
㊲伝統文化の保存と継承を図る

産業の振興
㊳観光の振興を図る
㊴商工業の振興を図る
㊵情報通信関連産業の振興を図る
㊶農水産業の振興を図る
㊷物流と交流の機能充実を図る
まちの活性化
㊸水辺を活用し交流と賑わいをつくる
㊹商店街やマチグヮーの活性化をすすめる
就労支援・相談体制
●就労支援の仕組みを充実させる
㊺消費生活相談の充実を図る

都市防災と防犯
㊻災害に強いまちをつくる
㊽地域の防犯・交通安全活動を推進する
㊾市民が安心できる消防体制をつくる
㊿災害への対応力を高める
(51)災害時のライフラインを確保する
市街地の整備
(52)地域特性を活かした土地利用をすすめる
(53)快適で魅力ある市街地をつくる
(54)快適に住み続けられる住宅環境を整える
交通体系の整備
(55)誰もが移動しやすいまちをつくる
(56)体系的な道路網をつくる
上下水道の整備
(57)安全でおいしい水道水を安定的に供給する
(58)公共下水道の整備・普及を推進する
自然と調和したまちなみ
(59)自然を感じられるまちをつくる
(60)地域にあったまちなみをつくる

※青字は市民会議からの提案が原案となっている施策。

実施計画

基本計画にもとづいて3年間の具体的な事業計画を策定します。事業の効果や財政状況を評価・勘案して毎年見直し改定します。(別冊)

指標とめざそう値(他106指標)

番号	指標名	単位	現状値	めざそう値 2012年	めざそう値 2017年	指標の意図・説明
1	市民と市役所が協働しておこなった事業等の件数	件	152 (2006)	250	300	市民と行政との協働の実績をみる指標です。協働事例数を一定程度増加させつつ、評価制度等を採り入れ内容の適正化もすすめていきます。
		取得方法または出典など		課による独自調査。		
33	高齢者のつどいの場の数	力所	－	50	100	高齢者が集える場の充実の度合いをみる指標です。関係機関と連携しながら、つどいの場づくりを促進していきます。
		取得方法または出典など		課による独自調査。(市や関係機関が支援して設置されたつどいの場の数。)		
40	地球環境保護のための実践項目数	個	2.05 (2004)	6	8	市民のエコライフの実践状況をみる指標。『マイバッグの使用』『ごみの分別の徹底』などのエコ活動の実践項目数の増加をめざします。
		取得方法または出典など		市民意識調査。(一人あたりの実践項目数の平均数)		
59	大学生による小学校支援数(累計)	校数	10 (2006)	20	30	教師への支援制度の充実をみる指標です。大学との連携(NAEネット)により受け入れた大学生に、現場体験機会を提供しながら、授業の支援体制としても活用していきます。
		取得方法または出典など		業務取得。		
85	就職に結びついた相談者数	人	189 (2006)	220	250	就労支援の成果をみる指標です。支援の充実をおこないながら年間就職達成者数の増加をめざしています。
		取得方法または出典など		業務取得。(なはし就職なんでも相談センターの実績から)		
107	交通手段に占める自家用車の割合	%	49.9 (2006)	45.0	40.0	自家用車から公共交通機関への転換の度合いをみる指標とします。市民意識調査において、自家用車の利用が占める割合の減少をめざします。
		取得方法または出典など		市民意識調査による。		

なっています。
市民による施策は、公募市民からなる市民会議が、日常生活の上での実感に基づきながら作成した87本の候補をもとに市民アンケートで選び出しています。

■将来イメージがみえる基本計画

第4次那覇市総合計画の基本計画には、行政運営の具体的な目標を「指標」と「めざそう値」として掲げるように留意しました。
この目標は、実現の確実性や財源の裏付けにもとづく「計画値」ではありませんが、「一」の推進を図る「一」を向上させる」のような目標の表現に比べると、目指している将来の姿をはっきりと示すことができます。

第4次総合計画(全文)について
・那覇市ホームページ
http://www.city.naha.okinawa.jp/へ掲載
・本庁3階市政情報センターで計画書販売
(1,000円/冊)

お問い合わせ
経営企画室
☎862－4263

第4次那覇市総合計画策定にあたって

那覇市長　翁長　雄志

市民の幸せ感を第一に

那覇市は、亜熱帯の気候と風土に育まれたゆたかな文化を持ち、琉球国の王都・商都としてアジア諸国との交流を軸に発展してきた長い歴史があります。大戦後は、米軍統治下での復興、そして日本復帰と、激動の時代を歩んできました。
その逆境を、互いに助けあうやさしさと逞しさで乗り越えてきた多くの先達を誇りに思うものであります。
私たちには、その誇りある伝統や歴史、文化を引き継ぎ、次代へ継承していく大きな責任があります。
昨今の社会状況を見ますと、経済のグローバル化が加速する中で、地球規模で環境問題が深刻さを増しつつあります。また、国内では、少子高齢化、高度情報化や地方分権の進展など、これまでにない大きな変革がすすんでおり、これからのまちづくりは、しっかりと目標を定めて対応していくことが必要となってきております。
ここに策定した第4次那覇市総合計画は、このような社会状況を背景に、市民本位の自治と持続可能な発展を実現するための市政運営の基本的な方向を定めたものです。
計画策定にあたっては、生活者の視点を重視した計画となるよう、公募市民による「未来を考えるなは市民会議」のご提案や市民アンケートの結果などを参考にしております。
まちづくりの理念に掲げた「なはが好き! みんなで創ろう、子どもの笑顔が輝くまち」を合言葉に、市民と行政が力をあわせて協働の取り組みをすすめ、市民の幸せ感を第一としたまちづくりに取り組んでいきたいと思います。
ご提案をいただきました市民会議の皆さま、市民アンケートや団体アンケートにご協力いただいた皆さま、そして専門的な観点から貴重なご意見をくださいました那覇市総合計画審議会委員の皆さまには、心より感謝を申しあげます。
本市職員には本計画実現に向けたさらなる努力を、市民の皆さまには市政へのご参画とご支援をお願いいたしまして、第4次那覇市総合計画策定のごあいさつといたします。

(総合計画とは)

市政の基本的な方向を定めた計画
総合計画とは、市町村が議会の議決を経て定める「基本構想」に基づき、市政の基本的な方向性を定めた計画です。ここに定めた第4次総合計画は、基本構想と基本計画から成り、実施計画は基本計画にもとづいて3年間の具体的な事業を別に定め、毎年更新して時代の変化とニーズに対応していきます。

(策定の経過)

○平成18年
5月　第4次総合計画策定基本方針決定
7月　「未来を考えるなは市民会議」活動開始
10月　職員ワーキングチーム活動開始
10月　市民会議から市長へ基本構想意見報告
11～12月　生活課題について団体、市民アンケート実施

○平成19年
4月　市民会議から市長へ基本計画市民案報告
4～8月　市民案に追加する施策(行政案)を検討
7月　那覇市基本構想素案についてパブリックコメント取得
7月　那覇市総合計画審議会(以下「審議会」という。)へ基本構想および基本計画諮問
8月　那覇市基本計画素案についてパブリックコメント取得
9月　審議会から基本構想答申
12月　那覇市議会12月定例会で那覇市基本構想を議決

○平成20年
1月　審議会から基本計画答申
2月　那覇市庁議において第4次総合計画決定

(まちづくりの基本理念)

なはが好き! みんなでつくろう子どもの笑顔が輝くまち～亜熱帯の自然と文化が息づく、自治・協働・平和都市をめざして～

那覇市は、亜熱帯海洋性気候に育まれた琉球諸島の拠点都市です。東アジアの中でも、地勢上重要な位置にあり、古くは琉球国の王都・商都として、中国をはじめ、アジア諸国との交易や交流の歴史があります。
海外および周辺離島を含む各地の人々の往来によって培われた独自の歴史や文化は、先人の残した貴重な宝物となっています。
一方、「鉄の暴風」と称される先の沖縄戦によって、市民は、戦争のむごさ、平和の尊さを心に刻み、戦後は、互いに手を取りあって、荒廃の中から那覇市発展の礎を築いてきました。
このような那覇市の自然、歴史や文化を拠りどころに、自治と平和を希求する市民の思いをまちづくりの基調とします。
その基調を踏まえながら、明日を創る子どもたちへの視点を大切に、市民と心をあわせて、多様な主体がまちづくりを担う新しい公共の時代を拓いていきます。
市民一人ひとりの幸せと地域への愛着を育み、環境に調和したゆたかで活力のある社会、子どもたちが笑顔で、「なはが好き!」といえるまちを築いていきます。

(基本計画の特徴)

■市民との協働による施策の編成
基本計画を構成する60本の施策は、市民の意見を参考にして設定した30本と、行政が追加した30本から